

義務教育学校 成田市立下総みどり学園 視察研修報告

平成29年11月29日

開校までの道のり

- H18 下総町・大栄町が成田市に合併
- H20 学校適正配置調査報告（下総地区4小学校統合を提言）
下総地区住民説明会 計2回
各小中学校保護者説明会 計8回
先進地・先進校の視察会
- H22 下総地区長会が統合に対する同意書を提出
下総地区4小学校統合決定
小中連携会議発足（教育委員会事務局内）
小中連携地区説明会
- H23 呉市小中一貫サミット参加
小中連携推進委員会（地域・保護者・学校・事務局）
小中一貫教育校設立決定
- H24 専門部会（5つの部会に各校の教職員が参加）
学校経営部会 教育課程部会 交流指導部会
行事・交流活動部会 地域連携部会
学校のイメージを決定
- H26 下総みどり学園 開校
- H29 義務教育学校へ移行

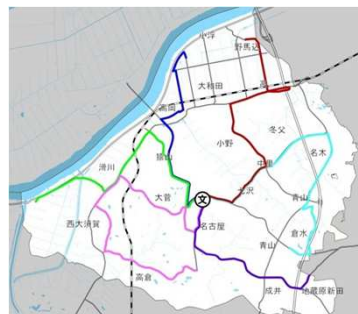


施設

- 旧下総中学校に統合した小学校を設置
- 新校舎の小学校棟は，中学校に連結して建設
- 下総中学校グラウンドは，隣接敷地に拡張

学区・通学

- 下総地区（学区）の中央に位置
- 6系統のスクールバスを使い，1年生から6年生までの通学を補助（徒歩通学：10名未満）
- 登下校2便ずつ
- 7年生以上は，自転車通学



特徴①

- 施設一体型
- 9年間同一の指導体制



自然に子供たちの交流が生まれる

(具体例)

1年生～9年生（いわゆる中学3年生）までの縦割り班で清掃活動を実施など

⇒子供たちの交わりのスクラムが9年に伸びている。

⇒下総みどり学園卒の高校生が2、3年生に声をかけていたりする。

⇒地域との繋がりが非常に強くなっている。



特徴②

■ブロック制（4-3-2制）

前期ブロック（4）：1～4年生

中期ブロック（3）：5～7年生

後期ブロック（2）：8～9年生

○それぞれブロック長を指名し、ブロック単位での活動を中心に教育課程を運営（日頃からリーダーとして育てる）

○各ブロック毎の行事を実施
（各ブロックを締めくくる行事についても開催）

制度上	前期課程 (いわゆる小学校部分)				後期課程 (いわゆる中学校部分)				
	前期ブロック				中期ブロック		後期ブロック		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年

(具体例)

前期ブロック

1年生を迎える会, 就学時健康診断
1/2成人式※



中期ブロック

5年・7年合同宿泊行事
立志式※



後期ブロック

学園全体のリーダーとして様々な行事で活躍
卒業式※

※各ブロックの締めくくりの行事

特徴③

■授業時間の違い

1～4年生 : 45分授業
前期ブロック

5～9年生
中期ブロック : 50分授業
後期ブロック

⇒朝と昼以外はノー
チャイム
⇒子供たちが時計を
見るようになった。

(具体例)



特徴④

■ 5年生からの教科担任制

- 小学校の担任交換や専科教員（中学校の教科免許を持った教員）による授業の実施
- 5年生から定期試験（中間・期末等）を実施
⇒ 専門的な教員が教えるため、学力的に非常に効果をあげている。

（具体例）

5年A組 時間割						6年B組 時間割							
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		
1	社	家	社	道	算	英	図	1	国	算	道	国	社
2	算	算	国	英	図	2	英	理	理	体	算		
3	国	音	家	国	国	3	音	国	社	社	家	音	体
4	体	音	英	算	理	算	4	算	体	社	英	家	理
5	学	理	体	社	体	理	5	学	図	書	算	国	
6		書	社	ク	総	6		図	英	算	ク	総	

担任	TT	教科担任
----	----	------

特徴⑤

■ 異学年交流

上級生と下級生が学び合う場面を多く取り入れている。

（具体例）

- 縦割班による清掃【全校】
- 縦割班による遠足【全校】
- 体育祭【全校】
- 部活動【5～9】
- 音楽祭【5～9】
- 4年生に8年生が本を紹介【4・8】
など

特徴⑥

■地域との絆

児童生徒の成長を家庭，学校，地域が一体となって見守る。

（具体例）

○リサイクル活動

（地域，生徒，PTAと一緒に年4回実施）

⇒卒業生が多く参加

○下総地区の建設業協会が協力

（足りない備品の作成や体育祭の入場門作成,撤去等）

○地区の祭りや敬老会に参加

○事前質問と回答

質問事項	回答
1 学校経営方針の統一はどのような行程で行いましたか。	平成23年8月、成田市教育委員会主導の下で、地区の代表者、保護者代表、小中教員、教育委員会で組織する「下総地区小中連携推進委員会」を立ち上げ、計17回会議を実施。小中一貫教育の実施や通称名、校章などの様々な事項について協議・決定しながら準備を進めてきた。
2 物品の処分や管理をどう進めていきましたか。	統合小学校が開校するにあたり、スクールセットについては全て新しいものを購入。必要な物品については、各小学校から持ち寄っている。新規で購入する部分もあつたことから、必要のないものについては、各小学校に据え置き、市内の他校で必要とする物については、使い回している。備品に関しては教育委員会が管理している。
3 統合前の各小学校でのそれぞれの備品（理科実験器具、体育器具、楽器、図書等）は、統合小で使用しているのですか。	前述の通り、必要な備品については各小学校から持ち寄っている。
4 統合する学校間での調整会議等はいつごろから始めましたか（教育課程）。	平成24年1月より成田市教育委員会主導の下、各校教職員が中心となって専門部会を開催し、協議を重ねてきた。教育課程部会も5つの部会（学校経営部会、教育課程部会、生徒指導部会、行事・交流活動部会、地域連携部会）の一つとして機能し、協議を重ねてきた。詳しくは本校Webページをご覧ください。
5 家庭との関係は統合前・後で変化はありますか。（やりにくくなったとか、良くなったとかありますか？）	開校当初は、統合したこともあって、一部保護者から「以前は一人一人をきめ細かく見てもらっていたが・・・」「小さい子が大きい子の悪い影響を受けるのではないか」「小さい子が大きい子にいいじめられるのではない」「中学生の体育祭の内容が幼稚になった」「小学生にとって体育祭の準備期間・内容が厳しい」等々のご意見いただいたが、現在は、小中一貫教育制度に関するご意見等は無いに等しく、むしろ好意的に受け止められている。

質問事項	回答
<p>6 生徒数（児童数）が増えたことによる，指導・管理上のメリット，デメリット（理解度格差，いじめ対応，連携・共有の取り方など）なんですか。</p>	<p>【メリット】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多くの子供たちと接することにより、個々の人間性が養われる。クラス替えができる。切磋琢磨ができる。 ⇒人間性の伸長 ②クラスメイトがたくさんになって楽しさが増える。行事が盛り上がる。学校生活すべての活動が活気がある。 ③学習面で多くの授業形態が可能となった。一斉授業、グループ学習、個別学習、学び合い学習等 ④各学年複数クラスになり、授業内容の充実が図れるようになった。 ⑤対外的な大会で成績が良くなって意欲が増してきている。 ⑥保護者の交流が広がり、視野の広がりが期待できる。 ⑦小規模校で面倒を見られすぎだった児童の自主性が増した。
<p>7 統合してからのメリット，デメリットはなんですか。</p>	<p>【デメリット】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①通学範囲が広がり、88%の児童がバス通学となった。バスが朝・帰り各2便ずつの関係で、高学年は毎朝7時には登校。下校も低学年の後になるため、一斉下校がしにくい。バス通学により、職員の出退勤時間も時間外になってしまう。個別またはクラスで下校時間を遅らせることができない。(補習等) ③学校生活のあらゆる活動において、それまでよりも時間がかかると。→4年目になり解消されている。 ④行事に対して前年度踏襲ができていないため、教員の精神的な負担が大変である。また事前準備・当日の運営で時間的・体力的に負担が大変である。→軌道に乗るまでが大変である。 ⑥義務教育学校になったことで、小中の行事を行うことにより管理職は忙しくなっている。
<p>8 授業参観は、どのように行っていますか。（1～9年生まで一度に？小・中それぞれ別の日に？）</p>	<p>第1学期・・・全学年一斉参観，学校公開(3日間) 第2学期・・・音楽祭、文化祭 第3学期・・・1～8年生一斉参観</p>
<p>9 体操服は1～9年生まで同じデザインですか。保護者からの意見はありましたか。</p>	<p>1～9年生まで同じデザインで統一している。保護者からは、7年生の段階で買い換えなくても良いので助かるという意見をいただいている。</p>
<p>10 PTA組織はどのようになっていますか。小・中別々ですか。1つの大きな組織ですか。</p>	<p>PTA組織は小中の別はなく、一つの組織で運営している。統合の折には、統合前の学校規模も鑑み、各役員・委員の定数を定めた。副会長については、統合前の4小学校区から各1名ずつ選出する決まりを作った。今年度から義務教育学校として新たにスタートし、PTA組織の改編に着手しているところである。</p>

	質問事項	回答
11	所持教員免許の関係で1年生から6年生、7年生から9年生の指導方法は、どのようになっていますか。（教員は低学年から高学年まで指導するのかなど。）	本校では、5年生から段階的に一部教科担任制を実施しており、特に美術・音楽・家庭科といった技能教科においては、専門性を活かし、中学の免許を持つ教員が、5年から9年生までを（音楽は3年から）一人の教員が一貫して指導している。他にも、7年社会科担当が6年も指導、7年副担当が1・2年体育を指導している。また、小中双方の免許を所有する職員の中には、6年→7年→8年と持ち上がっている者もいる。
12	部活指導の参加について、どのような制限があるのですか。	部活動への参加が5年生以上であるため、教員の指導については5年生以上の担任及び講師が参加している。部会・郡陸上大会、市ミニバス大会、市ロードレース大会といった対外的な小学生の大会については、その別ではない。
13	義務教育学校となり、先生方の負担が増えたということがありますか。小学生にあたる学年の担任の先生が、部活を担当しているが、例えばクラスで子供同士のトラブル等があったり保護者への報告等が必要となった時、ただでさえ忙しい仕事にさらに忙しくなったりということ等がありますか。（個人的に先生が活きいきしないのではきないと、子供達も活きいきしないのではと思っています。）	小中一貫校として3年の積み重ねがあるため、義務教育学校となってから新たに先生方の負担が増えたというよりは特段無い。部活動には、複数の顧問が配置されているため、保護者対応があっても、他の担当者でカバーしあうことができる。その点で、さらに忙しくなると言うことはない。しかしながら、部活動指導そのものが、負担を増やしているのではという問題に関しては、今後負担軽減のための方策を講じていく必要があると考えている。
14	3年前の小中一貫校から短期的に義務教育学校に移行した理由はなんですか。（なぜ義務教育学校なのか、良かった点は何かなど）	最終的には市の方針によるもの。詳しくは市教委へ。
15	義務教育学校になって短期間ですが、現時点で改善点などはありますか。	特になし

	質問事項	回答
16	<p>義務教育学校の運営にあたり、①メリット、②デメリットについて何かありましたらお伺いしたいと思います。</p>	<p>【メリット】 教科担任制を考える際、小中間の人事交流は校内人事で済む。 【デメリット】 大きな問題は無いが、各種団体への校種の変更の周知が必要になってくる。 →学校名が変わったため、調査校種や各大会の賞状作成に不具合が出てきている</p>
17	<p>スクールバスがあるようですが、体力低下等見られますか。7～9年生の運動部の成績はいかがですか。又、バスを使用しない子群とバス使用群を比べると体力差はあったりしますか。</p>	<p>スクールバスと体力状況について因果関係があるかは定かではないが、特に感じていない。</p>
18	<p>前期ブロック児童はスクールバスのようですが、中期ブロック児童は歩き登下校ですか。</p>	<p>スクールバスの利用は、前期課程児童(1～6年生)となっており、学校周辺に住んでいる児童のみ歩き登下校となっている。</p>
19	<p>職員の構成は何を基準にしたのでしょうか。統合校の職員配置については、茨城県では新設校における加配1名(教頭・教諭・養護教諭・事務等)が認めれているが、選択するときにとんかなことに注意して選んだらよいか、また実際にどのような視点で選んだのかについてお聞きしたい。</p>	<p>千葉県では、統合加配が認められているが長く3年である。そのため、統合加配はいただいていない。その代わり、本校では県への加配要望に基づき、現在、少人数、小中一貫、小学校専科の3名の少人数加配をいただいている。</p>
20	<p>用務さんの役割は、どのような業務をしているのですか。</p>	<p>主に花壇の手入れや給食運搬の補助をしてもらっており、義務教育学校としての特徴的な仕事はない。</p>

○当日質問と回答

	質問事項	回答
21	スクールバスの運行距離はどのくらいでしょうか。	最も遠い子供で6kmとなっている。時間にすると約30分程度。
22	スクールバスの利用は無料としているのでしょうか。	「一切ご家庭に負担はかけません、経済的な負担はかけません」ということで行っているので、当初からスクールバスの料金をもらうことは考えていなかった。成田市として、統合によるメリットは全くないと思う。
23	学校医が決まっていることにメリットがあるのでしょうか。	本校の子供をよく見ていただいている。特別な例かもしれないが、ある学校医は自身でミニSLを整備している。子供が招待してもらい、乗せてもらうなどしている。そのくらいの密着度のある付き合いをさせていただいている。
24	登下校範囲内にある病院の医師でしょうか。	この地区には耳鼻科などがないので、地区外の医師に来てもらっている。
25	学校経営方針などを1から作ることとなったと思う。最初は、どういった人達が中心となり、基本的な考え方を作り出してきたのでしょうか。	概要説明にあった学校経営部会に市教育委員会に市教育委員会の管理職や各学校の校長、教頭が集まり、学校のイメージ作りを行なった。その中で文言の整理をある程度しているが、最終的には校長が速やかに提示できるようなところまで詰めていた。
26	25の回答を基本として、最終的に着任した校長の考えと教員たちと話し合いながら調整し、スタートしたということでしょうか。	ポリシーとして、完成形ではないということを知ってスタートしている。やってみることにし、結果を恐れないういであるということからあった。当時の校長、教頭は、やってみて無理だったことは、保護者への説明も含め、臨機応変に行っている。現在はスタンダードのようなものが出来上がりがりつつあるので、今年の4月からは、ほとんど変更していない。

	質問事項	回答
27	4-3-2の学年区分に決定した根拠、それが良かったのか、悪かったのかをお聞きたい。	義務教育学校は全国で48校あり、4-3-2制が約8割、6-3制が残り2割となっている。統合の際にも話したが、いわゆる中1ギャップが明確にある。実は、平成20年に統合の話をした時、この中学校は荒れていた。小学校の保護者からは心配する声があった。小学校のせいだ、中学校のせいだという議論はよくあると思うが、「子供たちが6から3にいくステップは大きい」という認識に至り、9年間を通して行うことによって、ステップを小さくできないだろうかということになった。1つの区切りを4にし、6年生と7年生の繋がりをどのようにするかということで、5年生、6年生、7年生のブロックとした。8年生、9年生は短いけれども、学校のリーダーとして育てるので2年とした。5年生から教科担任制を行い、段階的に多くの職員と関わる。なので、6年生から7年生になった時に突然、色々な先生と出会わなくてはならない。また、例えば不安になった場合も、去年、一昨年に教わった先生がいるので、上手く使うことができる。今後もそれについては、継続していきたい。
28	6-3制の場合、中学校へ進学する時に自転車あるいは制服等の問題が家庭ではあると思いますが、義務教育学校となると、7年生から制服ということが基本となるのでしょうか。	現在、成田市内では、大栄地区という地区が平成33年度開校に向け、義務教育学校を計画し、工事も行なっているところ。そこでの議論の中で、5年生から制服を着用するかどうかということがある。その地区の小学校は、1校だけが制服だったもので、私服の小学校が統合することになる。そのため、どちらに合わせるかという状況になっており、ハードルが低くなっている。本校の場合は、5年生からとなると、活動面や子供の身体も急激に大きくなっていく、経済面もあるので、しばらくはこの形でいこうかと思っている。
29	体操服は、開校時に一気に変えたのでしょうか。	中学校と同じデザインとしたので、ほとんど一斉。以前の小学校のものを着ても良いという形で行っていたが、ほとんど着ていなかった。
30	統廃合後の跡地利用については、どのセクションが、どのような議論を行っているのでしょうか。	統合して跡地となった際、様々な問題が出てくる。教育財産ではなくなり、市の普通財産となるため、それをどうするかということについては、市全体で考えなくてはならない。行政需要や地域の要望もあり、非常に難しい問題。以前の跡地利用では地域に考えてもらったが、時間が長かかってしまった。そのため、下総地区からは、市が計画を作り、それを地元で提示するという流れになっている。企画政策課という市の中枢の部門が中心となり、各課と連携を取りながら、計画を作り、それを地元で提示していく流れになっている。

視察レポートまとめ

○ソフト面

- 1 何年もかけて、小中連絡会議で話し合われて作成されたというお話でしたが、これは参考にすべきだと思いました。
- 2 「どんな学校をつくりたいか」「どんな子どもたちを育てたいか」そして、「どんな力を身に付けたいか」という目指す学校像，子ども像等を，学校と保護者，地域の方々と共に考え協議会を通して深めていったことが参考になりました。
- 3 準備期間，部会等，計画的に実施するには，先進校の取組を参考にする必要があると強く感じた。研修視察はとても有効だあると思う。統合準備の中心にいた市教委の先生が，義務教育学校初年度の校長先生というのは強味だと思う。学校経営の方針等を打ち出すにもグラウンドデザインを職員に示すのも，先が見えている（前もわかっている）校長先生がいると強い。
- 4 9年間の中で培われる人間性，個々の学び育ち，行事等を通しての活躍，保護者等の交流など学校のよさや特色が目で見えて分かりました。
- 5 低・中学年から教科専門の教師の導入，くつをそろえるなど生徒指導面での共通理解も小中一貫校のよさであると感じました。
- 6 ブロックのリーダー制（4年，7年，9年生）による自主性の育成はよい取組だと思う。活躍の場が確保されていて良い。
- 7 専科，教科担任制による基礎・基本の定着，TTによる個に応じた指導，事務時間の確保が期待できる，茨城の場合，小中経験者が多いので人員の配置により，より大きな教育効果が得られると思う。
- 8 加配の先生の数も充実していて，手厚い指導ができることが感じられた。

9

小中一貫教育（義務教育学校）には、新しい学校を作るという校長を中心とする職員の確固たる意思と地域の理解・協力が不可欠だと思っている。今回の視察を通して、校長の説明から新しい学校づくりのビジョンをもつことの必要性、そのためのリーダーシップの大切さや教職員の信念を感じ取ることができたことは有意義だった。一貫教育のメリットには「教育課程の一貫した早期の計画」や「中一ギャップの軽減」、施設一体による「コストダウン」などがあげられる。

説明の中から参考になる点は…

- ①下総でなければできない教育
- ②一つの職員室→考えを共有することによるスピーディーな対応ができる。
- ③前期（4年）・中期（3年）・後期（2年）のブロック制
→各ブロックの上級学年を中心に、生徒による下の学年の行事等 の手伝い→自助・共助の精神を養う。
- ④「中一ギャップ」の弊害の軽減を図るため、中期（5～7年生）の教育が重要である。→精神的な負担が少なく、後期の学年にスムーズに移行できる。
- ⑤清掃は、低学年と高学年と一緒に作業を行う。→学年を超えて協力することの必要性や思いやりの心が育成できる。
- ⑥2学年間交流→学年が違うことから学びあえるものがある。
- ⑦体育祭は合同で実施→年齢を超えた学園の一体感が生まれる。
- ⑧5年次からの教科担任制→教科の専門性を早い時期に生かすことができる。

など、良い点があると思うが、デメリットも考えられるので情報収集や検証が必要になってくると思う。

例えば、規模が大きくなると生徒一人ひとりに目が行き届くのか、早期の教科担任制の弊害はないか、施設共有による調整が円滑にいくかなどの課題はあるが、知恵を出し合うことにより問題は解決（軽減）していくと思う。

目指す子ども像や教育目標は、「思いやりのある子」・「自分の考えや目標を持てる子」・「自主性のある子」などが考えられるが、視察では下駄箱の靴の入れ方など“基本的な生活習慣”“礼儀やマナー”の重要性を重視していると感じた。さらに、複数の学年間交流（縦割り班活動）を通して、“教える喜び”“他を思いやる気持ち”を培っていけると思う。もちろん学習活動は重要だが、部活動や行事を通して、人には“様々な個性”があることを知り、学年を越えた交流を通して、お互いに尊重しあえる存在になっていけるのではないかと考えている。

- 10 行事の子供たちのまとめたミニ新聞等のまとめが、細かい文字でびっしりと、しかも、内容もしっかりまとまっていて、国語力の高さにおどろきました。全ての教科に国語力は必須となる所ですが、誰もが目にとめられる廊下に掲示されていることで、下級生達も上級生のそういったお手本があるというのは良いことだと思いました。
- 11 熱意を持ってリードしてくださる教育関係の方が、必要なのかなと感じました。
- 12 教科担任制の指導が教科によっては低学年のうちから受けられることのメリットは想像以上にあるなと感じました。中一ギャップもなくなったとのことでしたし、保護者的には、少人数のほうが手厚い授業を受けられると思っていたが、人数が増えたことで自主性が育つ点、良い手本（先輩）があることの大さきを感じました。
- 13 視察先の校長先生がおっしゃっていた「9年間の連続した環境だからこその教育、だからこそしかできない教育」が統合小でも実現されることを熱望します。上級生から下級生が学び、下級生から上級生が学ぶ環境、中学生と小学生が低学年のうちから関りあうことで、子ども達が「自分はこの地域を支える一員なんだ」と胸を張って卒業できるような学校であって欲しいです。
- 14 卒業しても卒業生が行事に参加したり、後輩たちに声をかけてくれる学校になっているのが印象的でした。
- 15 地域性を考えると、現在、3小学校でやっている農業体験的な行事は可能であれば、継続されると良いのかなと思います。
- 16 子どもたちを支えてくださる先生方にとっても良い環境であることを期待します。職員室は一つが良いだろうなと感じましたが、あまり狭くならず、現在の北中のように明るく開放感がありつつ、先生方にとって使いやすい環境になって欲しいです。
- 17 人数的な条件がよい。35人を目指しての学校づくりだと人間的な面がネックにならないか心配になりました。
- 18 P T Aの人員面が心配
- 19 前任校は市の「まごころプラン」により、小中一貫教育を推進していました。中学校にあわせて通学ぐつは白にしていました。体操服が9年間いっしょであるならば通学ぐつ等もそろえてもいいのかなと思いました。

○ハード面

- 20 現北中校舎とつなげて校舎を新設はきびしいでしょうけれど、できるだけ近い位置に建設し、雨でも傘をささずに移動できる通路は必要だと思いました。
- 21 小中が廊下で行き来できるような建て方が良い。
- 22 校舎の作りは、今の北中と同じつくりにしていったほうがよいと感じた。
- 23 中学校の施設に増設するということで、校舎が広い。動きも繁雑になり、慣れるまでに時間がかかりそうだと感じた。安全面、児童生徒の把握等、校舎が複雑なので不安がある。
- 24 スクールバスの乗降を考えて、ロータリー、ピロティはあった方がのぞましい。
- 25 設備が整っているなと思いました。かなり金額的にもかかっていると思います。小美玉市ではどれくらいかけられるのでしょうか。
・昇降口までのアーケード
・カウンセリング（箱庭もあるようです、カウンセラー常駐）、プレイルーム、通級教室等の配置 ※これから必要だと思います。
などなど、恵まれているなと思いました。
- 26 不登校、その他で、他の児童生徒の目を気にしないで学校に来れる昇降口が配置できると良い。（通常の玄関とは別に）。
- 27 子どもたちが主体的、対話的に学び合うスペースが十分に確保されていてよかったです。
バリアフリーのためのトイレ、エレベーターの設置など地域に開かれた学校としての機能インクルーシブの視点としてもよかったと思います。特に、アーケードは雨天時、緊急時の対応として整備・工夫されていました。
旧校舎（～9年生）がせまいのが残念でした。
- 28 特別教室は、複数必要だと感じた。視察では、図書室、体育館などが充実していてすばらしかった。
- 29 言語フォロー教室は必要だなと感じました。マジックミラーで子供の様子見れたら最高です。（あくまで理想論ですが）
- 30 防災での非常ルートがわかりづらかった。

31

＜校舎全体＞

みどり学園は、既存の校舎（旧中学校）に新校舎を増築したが、新旧校舎の明るさや機能の差は歴然としていた。しかし、旧校舎もリフォーム中で明るさや使い勝手も改善していくと思われる。新校舎は廊下も広く、生徒の動きも考えた作りであった。普通教室・小教室・特別教室などの配置も生徒の動きを考え機能的に配置していると思った。

＜普通教室および廊下＞

特に廊下側の仕切りがほぼフルオープンになることと、廊下側のスペースが広くとってあることで、使い勝手（集合、清掃、換気、明るさ、授業参観、避難時など）が良いと思う。

＜特別教室＞

小教室や支援教室などを利用しての習熟度にあわせた指導も、生徒にとっては理解度を高める良い形態だと思う。多目的室、多目的スペース、プレイルーム、ミーティングルームなどは、学年や前・中・後期ブロックに合わせた使用ができるのが良い。

＜昇降口＞

明るく、シンプルでスペースが広く、利便性が高い。

＜グラウンド・体育館＞

グラウンドは直接見学はできなかったが、体育の授業、部活動、体育祭などに利用するので十分なスペースが必要だと思う。（部活動での衝突の危険回避などにもなる）

体育館（2か所）はアリーナと体育館を利用し、前期・後期課程の生徒を分けて運用面の利便性を図っている。

＜バリアフリー＞

視察では、校舎が3階のところもあるので階段も多かったが、可能な限り段差を無くし、生徒の動きを考えたつくりが必要と思う。

＜ピロティ（生徒の待機場所）＞

大きな屋根付きの待合場所（様々な集合に使用可能）があり、天候に左右されずバスの乗降ができる。みどり学園では88%の生徒がスクールバスを利用しているが、同じバスで2回の往復で送迎している。そのため高学年においては早めの登校（7時）になってしまいますので、送迎の方法などの検討は必須である。

32

廊下の壁がフルオープンになるのは良いなと思いました。廊下、階段は幅広が良いですね。

- 33 トイレは男子トイレもオール洋式がよいと思います。また、今の子どもは骨折しやすいとききますので、もし、足骨折等していて車イス等になっても使えるような、車イス対応のトイレを最低1つはつけて欲しい。アコーディオンカーテンじゃなく、スライドドアのものを。
- 34 黒板（ホワイトボード）は上下可動式のものが良いと思います。見やすいみたいです。
- 35 空調は、全館タイプでないとダメです。